

2016年5月15日付 毎日新聞

洛北でまちくさ探し 鞍馬小

子どもの自由な発想
や表現力を育むワーク
シヨップ「京都洛北
まちくさみっけ！」(N
PO法人京都洛北・森
と水の会主催、日本写

真印刷協賛)が14日、

京都市左京区の市立鞍馬小で開かれた。14人の同校児童が校庭に生える雑草を「まちくさ」としてデジタルカメラで撮影し、その写真作品に自由な発想で名前とコメントを付けて発表した。

子どもたちに環境への意識を高めてもらおうと洛北エリアの寺社仏閣で作る同NPOが



「まちくさ」の写真撮る児童
＝左京区の市立鞍馬小で

2011年から各地で開催しており、今回は貴船神社が協力した。ワークシヨップの考案者で、芸術家の重本晋平さんが児童らと共に校庭を散策。児童らは花壇や滑り台の裏など、思い思いの場所での自分のお気に入りの「まちくさ」を発見し

ていた。5年生の畑美咲さん(10)は「普段は気付くことのない、いろいろな『まちくさ』を発見できて楽しかった」と笑顔を見せた。